

日本高齢期運動連絡会ニュース

発行責任者 武市 和彦
〒164-0011 東京都中野区中央5-48-5
Tel/fax03-3384-6654

発行所 日本高齢期運動連絡会
シャンポール中野504号
E-Mail nihonkouren@nifty.com
http://www.nihonkouren.jp

発行：隔月1回
2020年1月1日
No.341



「第30回ゆたかな高齢期をめざす東京のつどい」
フラ・フィ・オ・悠美の皆さんによるフラダンス=(記事P8)



謹賀新年

日頃からの高齢者大会と高齢期運動へのご支援・ご協力ありがとうございます。

第33回日本高齢者大会in福島は延べ3800人が結集し、後期高齢者医療窓口2割化反対、9条改憲阻止、原発ゼロの高齢者の声を響かせました。憲法・社会保障が重大な情勢の中、2020年の第34回日本高齢者大会は9月25～26日、長野県長野市で開催する予定です。

また、12月11～13日には高齢者のいのちを守る2020年度予算の実現へ厚生労働省前座り込み行動を行い、延べ150名が参加、多くの団体から激励をいただきました。

12月19日の全世代型社会保障検討会議は後期高齢者医療窓口負担の一定所得以上の2割化を決めましたが、断固反対していきます。当面、1月31日(金)に「2.1高齢者中央集会と国会議員要請行動」を10時半～15時・衆議院第一

議員会館大会議室で行います(中央社保協・年金者組合共催)。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

2020年元旦

日本高齢期運動連絡会
164-0011 東京都中野区中央5-48-5-504
代表委員 金子民夫
林 泰則
馬場康彰
小嶋満彦
事務局長 武市和彦

2020年1月31日(金)

2.1高齢者中央集会&国会議員要請行動

衆議院第一議員会館大会議室(資料代300円)

10:30～12:00 講演「後期高齢者医療制度問題
点、闘いの進め方」 寺尾正之氏

12:00～14:30国会議員要請行動

14:30～15:00要請行動報告集会

「ふくしまの今」見て感じた被災地見学800名が参加

12.14「第33回日本高齢者大会in福島第3回中央実行委員会」開催 大会開催意義を達成でき大きく成功した福島大会

日本高齢者大会中央実行委員会

12月14日、東京都生協連会館で県連絡会24県連29名、中央団体5団体6人、事務局4名あわせて39名の参加で開催しました。

開会あいさつを大河原日本高齢者大会事務局次長（神奈川）が行い、議長に田中事務局次長（茨城）を選出しました。

～あいさつ～

○「桜を見る会」逃げ切りをゆるさない闘いをつづけよう 金子民夫中央実行委員長

福島大会は現地視察に800名が参加し、全国にその体験を持ち帰った。一方参加人数は目標にわずかながら届かなかった。本日皆さんの議論でまとめをよいものにしてほしい。桜を見る会の問題で解散の話が出始めている。どんどん追及して逃げ切りを許さない闘いをしてゆかなければなりません。

○受け入れ大変だったが大きな成果

齋藤直哉現地実行委員長

昨年の実行委員会が開催されて1年が経過。大変な状況の中福島で引き受けることになりました。その理由は福島原発事故があったから。原発事故の実態をきちんと見てほしいとの思いがあった。大会前後の視察にも現地としては対応できるようにした。たくさん方に参加していただき大変勇気づけられた。大会の内容についても大変充実したものであった。また、地元松川事件などの学習会についても大変好評でした。全国から多くの参加者があり大変ありがたかった。

～大会まとめ報告～

○次の時代につながるがんばりを発揮

橋本憲幸現地実行委員会事務局次長

12/3に実行委員会解散総会を行った。福島県の各医療生協の組織部の方がおおいにがんばってくれました。若い職員が将来高齢期を迎えたときにまた福島で大会開催の場合今回の経験が必ず生きると思います。現地にも大きな励ましとなりました。原発事故以降の福島の今をみてもらおうということに力を入れた。その結果800名の方が参加していただきました。

29市町村から後援をいただいた。

○参加者数では課題も 各団体の年度計画に位置付けを 中央実行委員会武市事務局次長

第33回福島大会は大会開催の意義の面では大きな成果をえることができた大会でした。特に、現地視察に800名の方に参加いただいたことは大変重要でした。また、地元福島の参加者は全体会に500名が参加、また200名近くの方が大会運営に参加していただきました。大会参加者は3800名。目標に達成することができませんでした。要因としては参加者の高齢化や、年金が削減される中での参加費負担も問題などが挙げられます。年間を通じてカンパ活動などの取組みも必要です。各県組織の確立と各団体の年度計画の中に位置付けることが重要です。大会運営はスムーズに行うことができました。分科会と学習会の運営について、参加者の交流企画、温暖化や災害に対する分科会や学習講座の要望がだされました。また、会場についてはバリアフリーや音響について十分に配慮することの必要性についても強調されました。

○大会報告集の普及と活用を

中央実行委員会中山事務局次長

収支予算比94.6%。▲374千円不足。参加費の収益予算比▲91%の到達。参加人数4000名の到達が今後の大会運営では最低必要になります。報告集500冊の普及も今後各県で協力していただきながらすすめる必要があります。

～討論～

○大会報告集、サポートセンターブックレットを有効に活用してほしい（三重・寺崎さん）

○長野大会は前泊で参加予定（静岡・小高さん）

静岡は毎年大会を開催。今年で6回目となります。分科会の中に参加型分科会を設けた。全国の大会には34名参加。前日被災地の見学も行った。夜の企画にほとんどの参加者が参加した。被災した若者の発言には涙が出た。来年6月に三島で県高齢者大会を成功させ、前泊で長野大会に参加を計画している。

○県参加者の報告集を作成 (香川・北村さん)

ホテルが大会事務局できめることになったが、各県で決めてゆくほうがよいのではないか。今回泊まるホテルが決まるのが遅かった。香川県は参加者の感想文集を作成した。医療生協の理事会にも配布した。

○活動前進のため人的配置と財政力が必要

(東京・菅谷さん)

330人参加。東京の人口比では少ない。

東京大会と福島大会実行委員会を3月に結成。400人の参加目標については少しいかげんな決定方法だったのでまずかった。地域によって参加状況がある地域や、実行委員会がある地域からの参加が多かった、医療生協や年金者支部の組織がきちんとしているところが参加者が多い。北区などでは年間通じて大会参加カンパ活動を行ったりしている。最近増えているのは退職者組合。都職員の退職者組合などが大きな組織力を持っている。「東京の集い」今年5つの分科会を行った。全体集会は前川喜平さんが記念講演を行った。結果1050人が参加した。昨日まで厚生労働省前で座り込みを行ってきました。高齢者大会を支えるのにもっと東京の役割。つどいと高齢者大会に力が集中して他の運動の取組みが必要だがなかなか手についていない状況。高齢者大会と高齢期の活動を両方進めるためには人的体制と財政力が必要です。そのことをどうやって実現してゆくのが東京の課題です。

○高齢者大会参加を通じ高齢期運動を発展させることが大切 (千葉・樋口さん)

県の高齢者運動連絡会はあるが市町村レベルでは二つ。総会をしているのは一市のみ。高齢者大会で毎年親戚と会っている。今年は大変良い参加だった。全体としてはよかったが、分科会の講師の対応が不十分で、参加者から意見が出されていた。改善が必要ではないか。高齢者大会だけになっているが、参加することが高齢者運動を支えているのではないか。役員も代わる人がなかなかいない状況です。高齢者大会参加を通じて高齢期運動を発展させることができるようにしてゆきたい。

○認知症の権利擁護の問題も取り上げて

(山形・大場さん)

70人参加。牽引者が亡くなった後だったが

参加者が70人だったのでよかった。ただ山形の高齢者大会7回しているが、去年は開催できませんでした。来年は500人規模で再開できるようにしたい。分科会のテーマに認知症の方の権利擁護などもテーマに入れてほしい。

グループホームの経営をしている。認知症現在500万人なので、是非ともテーマに入れてほしい。

○県の高齢者大会を開催したい(新潟・山田さん)

福島大会は期待が大きく、予想以上の反応があった。民医連はいままで一桁の参加者だったのが、「どうしても福島に行きたい」ということで二けたの参加者があった。移動分会には参加者の半数が参加しました。柏崎刈羽原発がある県ですので福島の実現をみせていただいた。大変いい大会だった。移動分科会の弁当代について意見が出された。今後検討してゆく必要があるのではないか。大会としてはよく準備されていて新潟からの参加者も満足していた方がおおかった大会でした。新潟では県の大会ができていないのが課題なので今後できるように頑張っていきたい。

～討議のまとめ～

○福島の運動発展と継続に大きな役割があった大会 中央実行委員会武市事務局長

県で高齢者大会が開催できている県が20県。まだ半分に到達していない。ブロックの会議も十分にできていないところもあります。中国、九州、北海道、東海・北陸などです。意思疎通と活動をすすめてゆくにはこのことの改善が当面必要です。県の高齢者大会の開催とブロック会議の開催を定期的実施できるようにしてゆく。全体として福島大会は安全面でも大きな問題はなかつた。なりよりも現地の方が大いに役割を発揮していただいた、このことが現地の運動に引き継がれてゆくと思っています。

その後まとめと会計報告が拍手で承認され、第33回日本高齢者大会in福島の実行委員会は解散となることを議長が宣言して閉会した。

続いて第34回日本高齢者大会の開催地の決定と中央実行委員会の体制について日本高齢期運動実行委員会武市事務局長より提案があり次のように確認しました。

①2020年日本高齢者大会開催県は長野県長野市とします。

開催日時は2020年9月25日全体会、9月26日講座・分科会、移動分科会とします。

②第34回日本高齢者大会実行委員会体制について

中央実行委員会	委員長	高橋 淳	日本医療福祉生協連会長理事
	事務局長	武市 和彦	日本高齢期運動連絡会事務局長
現地実行委員会	委員長	山口 光昭	長野県高齢期運動連絡会会長
	事務局長	林 晃生	長野県高齢期運動連絡会事務局長

2020年9月25・26 日本高齢者大会 長野県長野市で開催 ～第34回日本高齢者大会in長野 中央実行委員会～

議長に田中日本高齢期運動連絡会事務局次長（年金者組合）を選出、中央実行委員長は体調不良のため欠席。

～開会あいさつ～

○安倍改憲と全世代型社会保障政策への闘いを大会の中心課題に

山口光昭現地実行委員長

一ヶ月前千曲川が氾濫した。昔から氾濫が起きていた地域。りんごの大産地。全国からの支援で多少は整備が進んでいるが、りんご園に流れ込んだ土砂はりんごを窒息させてしまう。あの地域で川が狭窄して遊水地のような状況。そこに新幹線の基地がある。

11月12日に現地実行委員会を立ち上げた。12月17日に今日の会議を受けて第二回の実行委員会を行う。長野での県の高齢者大会をこの間県が後援していただいている。地方的な特徴も大切だが、来年はきわめて重要な時期を迎える。安倍改憲と全世代型社会保障の課題を中心にすすめることが大切であると考えている。災害問題についても議論をすることが重要だと考えている。移動分科会は松代大本営を候補として位置づける。

○大会開催意義を提案

武市中央実行委員会事務局長

大会開催意義は以下の4点。

①安倍政権がすすめる「戦争する国づくり・9条改憲」をストップさせる大会

②安倍政権がすすめる、高齢者の人権、生活を破壊する「全世代型社会保障」、「75歳以上の医療費窓口負担2割化」にNO!を突きつける大会

③バージョンアップされた日本高齢者憲章案をみんなで作り上げる大会

④第二次世界大戦から75年！高齢者として、戦争体験と歴史を後世に伝え、二度と「戦争をしない」ことを誓う大会

大会参加目標については、1日目の全体会場のキャパシティの関係で現時点では一日当たり2000人2日間で延べ4000人。予算との関係で最低4000名の有料参加者が必要。今後地元実行委員会と相談して進める。

宿泊は各県で手配することを確認。宿泊先は長野駅周辺のホテルが便利である。

○大会予算案提案

中山中央実行委員会事務局次長

有料参加者を最低2000人目標とすることが必要だと強調された

現地実行委員会山口実行委員長から捕捉説明が行われた

○捕捉発言 夜の企画会場はホテル信濃路（長野駅近く）

夜の企画は長野駅から徒歩8分くらいのホテル信濃路で行う予定。200人～250人 2部屋、150人2部屋、実行委員会宿泊用として30～40部屋を確保している。

討議

○政治的意義だけでなく楽しさも押し出し100名を超える参加を目標に（神奈川・大河原さん）

神奈川の高齢者大会500人参加で実施。政治的位置づけだけでなく、楽しく行きたい。温泉とリンゴ狩りとお酒を位置付けるのがよい。福島大会参加者は大きな感銘を与えた。長野大会では何をめざそうか県連絡会でも議論し

ている。100名以上をめざしたい。福島大会の総括で、参加者の高齢化や生活が厳しくて参加費が重荷になっている。この点をどう解決してゆくのかが課題。もう一つは地域団体の年度活動方針の中に高齢者大会参加を位置付けるように働きかけが大切です。

○災害をテーマにした分科会開催を

(新潟・山田さん)

長野だけでなく、台風災害などで高齢者が犠牲になることが多い。高齢者が災害の際にいかに命を守るか。避難所などでの環境改善なども必要です。日本は関連死も多い。災害をテーマにした分科会なども是非計画してほしい。

○まちづくりや地域連絡会づくりが議論できる企画を (大阪・平井さん)

6月に会長になったばかり。大会参加も熱海大会から。大阪では日本と大坂の大会成功と地域の組織をつくろう。毎月定例日に四天王寺で宣伝している。地域連絡会がこの間増加していない。地域連絡会の検討会を設置している。高齢者の実態などもつかむ必要がある。その委員会を設置して調査、研究をしようと考えています。年金者組合と退職者会が中心になっている。その加盟団体の構成団体のメンバーを対象にしたい。地域組織の確立といった場合非常にむづかしい。地域の団体のあつまりか個人加盟の集まりかどちらにするか悩ましい。退職者会などが取り組んでいる行事に参加しながら組織の確立を考えていきたい。地域連絡会をどうつくるのか。今後地域が闘いの正念場になります。自助、公助、共助のまちづくりに対抗するまちづくりが必要。それぞれ団体で行われているまちづくりが一本になっている。まちづくりの視点から運動の提起が必要ではないか。そんなものが提起できて議論できるような分科会を考えてほしい。

○若者と高齢者がともに参加できる大会に

(京都・北村さん)

京都ではまちが壊されている。現在京都市長選挙を戦っている。中心になって高齢者が中心。若者も含めての運動にするべき。長野大会では高齢期運動が全国的な運動として取り組む運動として歩みだせるような大会にすべき。京都は地域で2つの高齢者大会が開催

されています。それぞれの団体が自分の課題が中心になっています。地域でいろんな団体が協力できるような取組みが必要。市長選挙での勝利めざしてがんばりたい。みんなの願いが集められるような大会にしてゆきたい。

○地元で闘ってこられた方の話がいっぱい聞きたい (婦人民主クラブ・石黒さん)

10月働く婦人の中央集会、11月に母親大会が開催される。その間にクラブの旅行がある。どうやって人を集めようと苦労している。それぞれ運動を成功させることも必要。私たちの命や人権を守ることの重要性などを学習し、今の実態が大変なのだということを知らせてゆくことが必要で、楽しいだけでは人が集まらないのではないかと感じている。地域では頑張っている運動や暮らしがあります。福島の大会の中でも地域で頑張っている人から学ぶことができた。長野大会でも地元で頑張っている方の話がいっぱい聞けるような分科会を開催してほしい。是非たくさんの人を誘って参加をしたいと思っています。

○講座分科会の運営の改善必要(日本高連 小嶋さん)

地域連絡会づくりの悩みなどがだされました。講座と分科会が毎年大会では開催されています。講座、分科会の在り方について検討しないといけない時期。講座は聞きっぱなし。分科会だが話を聞いただけという分科会になっている。各地で取り組んでいる運動を寄せ集めて討論する場とか作ることも考えていかないといけないと思っています。分科会、講座の内容についても準備段階から検討をすすめてゆくことが必要。

○介護の課題も重要 (千葉・樋口さん)

千葉の松戸では介護のインセンティブの導入で介護がうまくいっていると市は答弁している。しかし、現実には現場ではいろんな深刻な問題がある。介護の問題も意義づけの中に入れてほしい。介護の問題は地域の問題として取り上げて改善をすすめてゆき、高齢者大会でも活動が交流できるようしてゆきたい。

まとめ

○要望を下に実行委員会で議論を進めます

武市事務局長

7名の方に発言いただいた。高齢者の食の問

題も位置付けることが必要ではないか。代表者会議で検討してゆきたい。財政問題は物産カンパ活動をすすめる。高齢者の災害の分科会については地球温暖化の問題も含めた課題を今後実行委員会で検討する。地域連絡会づくりの件については、長野大会の中でいちづけられるようにしてゆきたい。若者も参加して高齢期の問題をかんがえられるような

企画が必要だと考えています。現地の闘いから学べるような企画も必要だと考えています。介護の問題も企画の中に取り入れるようにしてゆきたい。現地実行委員会と中央実行委員会できちんと議論実現できるようにと考えています。最後に提案文書と予算案について拍手で確認し会議は終了しました。



田中さん(茨城)



大河原さん(神奈川)



金子中央実行委員長



齋藤福島実行委員長



橋本福島事務局長



小高さん(静岡)



平井さん(大阪)



北村さん(京都)



福井さん(東京)



小嶋さん



山田さん(新潟)



山元さん(新婦人)



寺崎さん(三重)



樋口さん(千葉)



菅谷さん(東京)



大場さん(山形)



山口長野実行委員長



鐘ヶ江さん

第34回日本高齢者大会in長野 第2回現地実行委員会開催

第34回日本高齢者大会in長野 長野県実行委員会

2020年の長野大会へ向けて地元の体制づくりのため、12月17日、県内の13団体21名に中央実行委員会の武市事務局長、中山事務局次長を迎えて、長野市で第2回現地実行委員会を開催しました。

山口現地実行委員長の「長野らしい大会に」という挨拶に続き、中央のお二人から先の中央実行委員会の報告があり、討議に入りました。長野大会開催の意義について、中央実行委員会が提起した①9条改憲ストップ、②「全世代型社会保障」NO! ③高齢者憲章案の議論、④戦争体験と歴史を後世に伝え2度と戦争をしないことを誓う、に加えて⑤として気候

変動や災害、防災について を入れることにしました。「サブスローガン」については、5つの意義を踏まえて次回提案し検討します。

実行委員会の役員体制や役割分担については、参加の団体や個人が準備や運営に効率よく関わられるようにと議論が交わされました。議論を踏まえて次回実行委員会(1月)で実行委員会体制を固め、準備作業に入ることになりました。また、記念講演の講師について候補者を上げて頂き、こちらも次回会議で決定します。

というわけで、いくつか大事な課題が次回に持ち越しとなりましたが、参加者の長野大

会への意気込みは確実に高まってきたことを実感しています。

(現地事務局長・林晃生記)

75歳以上の医療費2割化反対、高齢者のいのちを守る2020年度予算を 年末厚労省前座り込み行動（12/11～13）にのべ150人参加 日本高齢期運動連絡会・東京都老後保障推進協会

日本高齢期運動連絡会と東京都老後保障推進協会は、12月11～13日に、厚生労働省（人事院）前で、「75歳以上の医療費2割化反対、保険料の引き下げを！高齢者のいのちを守る2020年度予算の実現を」要求する年末座り込み行動を行いました。この行動には3日間でのべ150人が参加しました。全世代型社会保障推進会議が患者負担増を打ち出し、後期高齢者2割化問題がクローズアップされている重要な情勢の中での座り込み行動となりました。

行動に先立ち両団体では11月に全労連をはじめとした全国労組・諸団体、東京都段階の労組・諸団体に申し入れを行いました。また、各政党や福島大会にメッセージを送っていた国会議員にもお知らせを出しました。後期高齢者医療2割化問題で議論が行われている中なので厚労省記者クラブを通じて各マスコミにも案内チラシを送り、事前に3社から問い合わせがありました。

11日の12時より松平晃さんによる開会のトランペット演奏が行われ素晴らしい音色を官庁街に響かせ、開会集会には全労連の岩橋副議長が駆けつけ連帯の挨拶を受けました。また、同日午後には神奈川社保協から4人が参加しました。2日目午後には足立区生活と健康を守る会の皆さんによる「うたごえ」があり、みんなで合唱しました。3日間とも道行く方々から「今の内閣はひどい」等の声があり署名



に応じていただき、募金箱のカンパは14200円、各団体からの連帯激励募金は14団体118000円でした。ありがとうございます。遠い県からは和歌山・新潟・奈良・茨城から代表が参加いただきました。なお、座り込みの器材組み立てには毎年葛飾高齢者懇談会の皆様のご協力をいただいています。

また、日本共産党国会議員団からは小池書記局長をはじめ12人が参加、それぞれ激励の挨拶がありました。

各県高齢期運動連絡会、都老協以外の参加団体は以下の様です。全労連、年金者組合（中央・東京・各支部）、建交労（中央・東京）、保団連、新婦人、中央社保協、全生連（中央・都生連各区）、全国自治体退職者会、JAL争議団、神奈川社保協、千葉県健康友の会連合、東京社保協（各地区）、都退協、東京自治労連、東京民医連、東京革新懇、東京民医労
(記 日本高連 中山晴夫)

介護保険制度の是非を問う運動が必要！

介護保険制度の20年を問う！「人権を守る介護保障を考える学習会」に 高齢者、障害者、サービス提供事業者など50名が参加 障全協・日本高連

12月13日、日本高齢期運動連絡会と障害者の生活と権利を守る全国連絡会（障全協）の

主催で学習会が開催されました。講師は神戸大学の井口克郎准教授。井口先生は、介護保

険20年を3つの時期に分けて振り返りを行いました。第一期2000年～2012年頃。2033年と2006年の2度の介護報酬改定で介護施設の職員人件費がいきにさがり、人材不足に拍車がかかりました。また、コムスンなど営利企業による介護報酬不正請求事件があった時期です。続いて2012年。社会保障制度改革推進法の成立で社会保障としての介護保障が解体され、「介護の社会化」からふたたび「自助・共助」へ逆戻り。その後2012年第二次安倍政権以降の介護保険制度改革で介護保険制度の「建前」の放棄が進みました。このことにより、介護保険制度導入時に宣伝された「メリット」は実現できずにいることを指摘。社会保障改悪を正すためには、憲法に加えて、国際条約をわたしたちの生活に生かすことが重要であることが強調されました。なかでも国際人権規



約と「健康権」、障害者権利条約におけるケア保障などの重要性に触れられました。今問題なのは、ケア保障の公的責任の後退でありそのことは、憲法25条と国際人権規約の違反でもあることを指摘されました。その後の討論では、施設管理者の立場、ケアマネの立場、サービス利用者の方それぞれから発言されました。

「ゆたかな高齢期をめざす東京のつどい」 全体会に1050人参加

東京高齢期運動連絡会



11月20日、杉並公会堂で『ゆたかな高齢期をめざす東京のつどい』全体会が開かれました。

「つくろう 平和憲法輝く国 語り合おう ひとりぼっちをなくす道」のスローガンを掲げ、会場いっぱいの1050人が参加し大きく成功しました。

現代教育行政研究所代表の前川喜平さんが記念講演を行い、多くの参加者からとてもよかったという感想が寄せられました。全体会の最後に、北区、杉並区、東村山市から、地域に根差した取り組みが報告され参加者から「大変感銘を受けた」「もっと詳しく

聞きたかった」等々の声が寄せられました。

全体会に先がけ、11月の初めから5つの分科会が行われました。

- ・「だれもが自分らしく生きる社会を考える・ジェンダー多様性って何」
- ・「人間らしく生き続けるために・新生存権裁判と年金裁判」
- ・「高齢になっても安心して住み続けられるまちづくり」
- ・「高齢者の働きがい・生きがい」
- ・「ひとりぼっちにしない共同墓所づくり」

東京民医連、年金者組合都本部、建交労都本部が担当し、いずれも充実した分科会になりました。

東京では、毎月実行委員会を行って相談しながら東京のつどいと日本高齢者大会のとりくみを進め日本高齢者大会in福島にも330人が参加しました。